



新型コロナウイルスと 手作りマスク

会長 太田 麗子

令和2年度は新型コロナと各地の豪雨災害、猛暑との闘いでした。一時は終息かと思われたコロナは1波2波3波と長きにわたりその勢いは続いています。更女会が計画をしていた活動も出来なくなりました。そこで、この時にこそ私達出来る事をしなければと思い、相談の結果手作りマスクを作成し千葉保護観察所、婦性会、松戸市内の児童養護施設、児童自立援助ホーム計4カ所の更生保護施設へ合計200枚持参し、使用して頂くことになりました。

さあ、それからは種々な生地を購入、大きさごとのマスクの布カット、アイロンでの芯の糊付

け、縫製、ゴム通し、袋入れ等会員が手分けしての作業でした。作りながら相手の笑顔を思い浮かべ、会員のマスクの目元も和みほっこりと癒されたひとときでもありました。

お世話になっております保護司会はじめ地域の方々とのコミュニケーションもままならない1年でしたが、令和3年度は心穏やかに、身体健やかに過ごせるように祈っております。

ご寄稿頂きました関係者各位様に御礼申し上げます。

ホームページも更新致しますのでご覧頂けたら幸甚です。



更なるご協力を

松戸地区保護司会

会長 渡来 隆雄

この度、松戸地区保護司会会長に就任いたしました。

松戸地区更生保護女性会の皆様には日頃から格別なご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、本年度は開始そうそう新型コロナウイルス感染拡大防止の影響から各更生保護行事が中止や延期になり、本年度の活動が難しい状況です。この中で、先日、詫びることもなく無責任な行動をSNSにて公開し、それを楽しんでいる若者の報道がされておりました。

「俺ってこういうことができるんだぜ」と大人になれない大人。受け取る側の感性もありますが、どうみても褒められる行動ではありませんし、近年、こういう利己的な人が増えてきているように思えます。私たち、更生保護に携わり、安心安全な街づくりを目指すものにとっても、こういうことがエスカレートしていくのではと心配しております。

今後とも更なる協力をいただけますようお願いいたします。

ご挨拶



松戸市地域福祉課長 清水 二郎

令和2年4月より地域福祉課長を拝命した清水です。どうぞよろしく申し上げます。
松戸地区更生保護女性会の皆様には、日頃より青少年の健全育成や非行防止等、更生保護の活動にご尽力いただき、心から感謝いたします。この場を借りて改めてお礼申し上げます。

“子育てしやすい街”をスローガンに掲げている松戸市としても、地域社会に基盤を持つ皆様の活動は、大きく貢献して頂いていると感じております。

今年は新型コロナウイルス感染症が世界的な広がりを見せ、いつも通りの活動を行うというのも大変難しくなっております。そんな中、今出来ることを最大限に行うという皆様のご活動は、暗い話題が多くなった今の世の中でも、非常に心強いものと感じております。

当課といたしましても松戸地区更生保護女性会の事務局として、皆様の活動が少しでもより良いものになるよう、微力ではありますがお力添えさせていただきます。職員一同どうぞよろしくお願い申し上げます。

「あたたかな活動に」



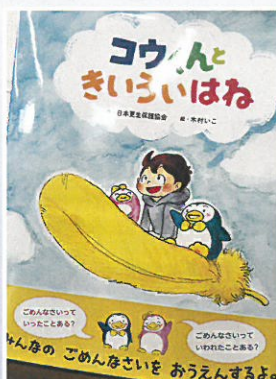
千葉保護観察所長 辻 裕子

松戸地区更生保護女性会の皆様におかれましては、平素から更生保護活動への御支援、子育て支援・非行防止活動等の地域との連携・協働活動などにきめ細かに取り組んでいただき、厚く感謝申し上げます。

犯罪や非行をした人たちは、貧困や疾病、嗜癖、障害、厳しい生育環境など様々な生きづらさを抱え、地域社会で孤立し、必要とする支援につながることを難しくしているところ、コロナにより人と人の顔の見える形での交流が妨げられ、更なる孤立が懸念されています。

皆様には、更生保護施設千葉県婦性会等にマスクを寄贈し、子どもたちが健やかに育つように絵本「コウくんときいろいはね」を読み聞かせていただいております。皆様の活動のような「人の心に灯をともしあたたかな活動」は、人と人がつながる絆を作り、犯罪や非行をした人たちの立ち直りに資するものとなります。

引き続き、犯罪や非行のない明るく住みよい松戸市を目指し、更生保護活動への御協力を賜りたくお願い申し上げます。



絵本「コウくんときいろいはね」



絵本の読み聞かせ活動を実施



—いまわたしたちにできること— あたたかな活動



こたにがわ園 訪問 11月20日



石井 太田 瀬川 小谷川氏 遠峯

コロナ感染が再び拡大しているなか更女会員全員で役割分担して作成した手作りマスクと寄付を太田会長他4名にて児童自立援助ホーム「こたにがわ学園」にお届けしました。

学園を訪れる度に、より過ごしやすい居場所となるよう工夫されており、現在7名が生活していました。在学中であれば22歳まで在籍することができるそうです。就職をして収入を得て社会人として自立できるよう、急ぐことなくゆっくりと準備をして欲しいとの先生のお話でした。

4月から社会人として卒園される方に、更女会から生活支援品を贈ることにしました。(写真・文 伊藤奈美子)

帰性会 訪問 10月16日



石川氏 田岡 吉本 太田 菅沼 遠峯 佐藤

晴香園 訪問 12月3日



寄贈マスクの製作



田岡 宮下氏 遠峯

～立ち直りを支える「地域のチカラ」～ 松戸地区更生保護関連団体交流会

令和3年3月25日(木)
時間：14時～
場所：ゆうまつど ホール



ご出席の皆様(敬称略・順不同)

- ◆協力雇用主会：戸田・殿村
- ◆聖徳大学 BBS 会：都丸
- ◆保護司会：渡来・五十嵐・高橋・鈴木・早川
- ◆更女会：太田・吉本・鶴田・末松・伊藤・遠峯・大黒



これまでにない活発な
意見交換の場となりました。

令和2年度 千葉県更生保護女性連盟
「**新入会員研修会**」に参加して
令和2年6月23日



石川 静枝

千葉観察所の辻所長により、まず犯罪、非行の現状と更生保護女性会の役割、必要性のお話を聞くことができました。

刑法犯少年の検挙人員は減少傾向、家庭内暴力事件の認知数は増加傾向にあるということ、8050(80代の親が50代のひきこもりの子を抱えている家庭のこと)問題、児童虐待、児童の貧困などの様々な問題があり、少年院入院の被虐待経験は男子少年27.2パーセント、女子少年43.3パーセント(平成29年度版犯罪白書より)だそうです。このお話の中で心に残った言葉は「生まれた時から犯罪者ではない。どこかで何かが起こってしまい犯罪者になってしまった。」

更生しようとする人の立ち直りを見守り、彼らの存在を排除しない、女性会が地域のチカラとなり、安全・安心な社会の実現に向け様々な活動、犯罪や非行の予防に取り組んでいることの重要性も理解できました。

講義が2つあり「更生保護制度の概要」では保護司、協力雇用主等の民間との協働体勢での目的や機能について。「更生保護女性活動」では、保護観察処遇への協力、更生保護施設への支援など具体的な内容でどのようにかかわっているかなどのお話を頂きました。改めて活動の領域の広さとともに、女性会のパワーを感じました。

犯罪や非行など件数では減少していると言われますが、社会現状も日々変わっていきます。またコロナ禍でもあり人とのかかわりが難しい状況ではありますが、身近な存在として、地域に根差した活動を目指し、皆さんと協力しながら継続していければと思います。

編 集 後 記



マスク着用での編集会議は、感染への緊張感と、顔合わせでの安心感で、複雑でした。今後、多様化する社会で、最近自殺者が急増している現状、軽視することはできません。

広報も紙とデジタル化をうまく組み合わせた姿勢で、記憶を記録し、整備していくことが急務であると感じた一年となりました。

表彰おめでとうございます

令和2年度
千葉県更生保護関係者顕彰式

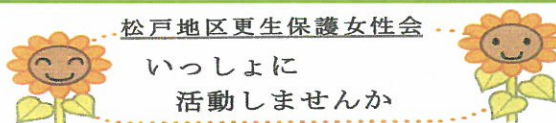
令和2年11月26日
(千葉市生涯学習センター)

新型コロナウイルス感染防止のため、従来同様の更生保護大会の開催は困難なため、今回は、顕彰式典のみとなりました。



◇千葉保護観察所長感謝状
菅 沼 初 江 様

◇千葉県更生保護女性連盟会長表彰
櫻 井 あつ子 様



非行防止と罪を犯した人の更生を支える活動をしているボランティア団体です。

更女会メールアドレス

E-mali:matudo.kouzyo@gmail.com

松戸地区更生保護女性会

🔍 検索